

星空案内人(星のソムリエ[®]) Tips

柴田晋平

(星空案内人資格認定制度運営機構)

MyRef doc/uguide/ug1.tex

2020年9月1日

さあ、はじめよう

私事ではありますが、ことし(2020年)3月に大学を定年退職し、この機会に、星空案内人制度のスタートアップガイドの改定や実施団体の実務の便利帳のようなものを書こうと思いました。4、5月は退職関係の手続き的なことやCOVID-19への対応などがあり落ち着いた時間がとれませんでした。最近執筆を開始しました。ところが今の調子でいくと完成までにはかなり時間がかかりそうですし、一方では、現実はいまぐろしく変化しています：COVID-19によるパンデミック、新規団体の申請、実施団体からの問い合わせ、受講生からの苦情など、執筆に時間をかけることもできなという焦りも出てきました。

それで、完成したもののリリースするのではなく、部分的に書いたものをTipsとして少しずつリリースし、最後にたくさんのTipsをまとめて完成とした方が現実的だと思うに至りました。そこで今後このシリーズを順次書いていくことにしたいとおもいます。全国の実施団体の皆様、これからこの制度を利用したい皆様、そして全国の星空案内人の皆様、どうぞこのTipsシリーズをご利用ください。

2020年9月1日

目次

第1章 モデル	3
1.1 はじめに	4
1.2 星空案内人(星のソムリエ)モデル	4
第2章 講座運営	7
2.1 講座運営の典型パターン	8
2.1.1 準案内人資格取得まで: 星空案内人(星のソムリエ) 講座	8
2.1.2 講義科目の単位認定	9
2.1.3 準案内人の認定	10
2.1.4 準案内人から案内人へ	11
2.1.5 実技科目の単位認定	11
2.1.6 資格取得後	13
第3章 星のソムリエ	14
3.1 星のソムリエとは?と聞かれたとき	15

第1章 モデル

1.1 はじめに

星空案内人資格認定制度がスタートしたのは 2003 年 (@やまがた天文台)、全国制度となったのが 2007 年のことです。その後、この制度は「星のソムリエ」の愛称とともに普及し、すっかり定着した感があります。今日は、星空案内人 (星のソムリエ) 資格認定という制度や、星空案内人の活動がどうしてこれまで盛んになったかという理由を考えたいと思います。(創設した私自身も初めの頃はなぜうまくいっているのかはつきりとした理由がわかりませんでした。) その理由を知ることが、制度を利用して成功するためのコツを知ることになると思うのです。これは、実際に星のソムリエの講座を運営しているスタッフの運営のヒントになるでしょう。

また、これから制度の導入をしたいと考えている皆様には導入の意図 (思惑) とこの制度の働きが一致するかどうかの判断にも使えます。たとえば、観光での町おこし村おこし (観光立国) といった最近のトレンドの中で、星を観光資源と考えることがあるかもしれません。もし、その事業のなかで星空案内人資格認定制度を利用したければ、制度が機能する仕組みをよく理解した上で戦略を練る必要があるでしょう。単に資格制度で資格を持った人を増やそうとしても目的は達成できるものではありません。

1.2 星空案内人 (星のソムリエ) モデル

ここ 17 年ほどの歴史を顧みて、星空案内人 (星のソムリエ) 資格認定制度の働き・仕組み (機能モデル) を私の理解した範囲で述べたいと思います。

星空案内人制度を導入すると、制度の実施団体 (現在 41 団体) では、まず、資格認定につながる講座を開講します。星空・宇宙が好き、あるいは興味のある人が集まってきて、まず、(1) **講座では基本的なことを学びます (楽しい!)**。次に講座が終わると、(2) **実技練習、案内の実際の練習などで実際の星空観察や観望会など様々な体験をします**。それらの場で

は (3) **受講生は、主催者 (実施団体) のスタッフ・講師、過去の講座の卒業生などのサポートをいただきながら学びます。**

このような流れの中に二つの重要な働き (function) があります。

一つ目の働きが「**ハッピー二乗の法則**」と呼んでいるものです。宇宙や星空、星の関わる文化などに興味のある人が講座で学ぶことは大きな喜びです。(もちろん、そのように講座のカリキュラムが組み立てられています。) これが一つ目のハッピーです。一つ目のハッピーでおしまい：つまり、講座を受けて (時には資格をもらって)、解散、というのがよくあるパターンです。星空案内人制度は、講座で学んでそれでおしまいではありません。次に、学んだことを星空案内という場で人に伝えようとします。すると、星空案内をしてもらった皆さんが大喜びで、その喜んでいただけたことを見て (体験して) ハッピーを感じることができます。これが二度目のハッピーです。これがあると、また、学んで、また、伝えたくくなります。このプラスの循環が巨大な力を生み出すのです。これを**ハッピー二乗の法則**と言います。「学んでハッピー、伝えてハッピー」という標語にまとめられます。

「伝えてハッピー」の場は観望会のようなしつかりとした場とは限りません。仕事帰りに「あの明るい星が金星だよ」と隣人に教えてあげると言った日常的なものでも「伝えてハッピー」の瞬間がやってきます。多くの受講生が、二千円程度の組み立キットの小型望遠鏡を街中に持ち出して、月のクレータを見て喜んでいただいたときの嬉しかったことを、満面の笑みを浮かべて語ります。

二つ目の働きは、「宇宙人の帰巢本能」と関係しています。「宇宙人の帰巢本能」は私の造語なので何のことやら？という感じだと思いますので説明します。多くの受講生は、星空が好きだったり、宇宙に対して興味があっても、周りの人に星空や宇宙話題を投げかけたり、語り合ったりする機会がないことに苦しんでいます。星空や宇宙に何かしら惹かれる人は少なくはないと思います。これを「**宇宙人の帰巢本能**」と呼ぶことにします。日常生活の多忙さの中にも、この宇宙人の帰巢本能を忘れ

ないで、星空・宇宙に興味をもって勉強したい・会話したいと強く思う人はそう多くはありません。しかし、そう思う人たちには話し相手がないのです。思い切って星空案内人の講座を受講したり、実施団体の活動に参加すると、星空・宇宙のことがいっぱい話せてびっくりし、共感できてまたびっくり、感激することとなります。星空案内人の受講生に感想を聞くとほとんどの人が「星空・宇宙の話題で会話をしても大丈夫な人/会話が弾む人と出会えたことが最高の幸せ！」と言います。

星空案内人制度がうまく機能している星空案内人講座では、「ハッピー二乗の法則」がうまく働き、みんなが「宇宙人の帰巢本能」を満たして幸せを感じています。この二つの機能がうまく働いているとその講座の実施団体は仲間が増え、受講生・卒業生の満足度も高くなります。

このことがわかっていると実施の方針が立ちます：

- (1) 講座開講、資格授与だけでは不足。資格で誘惑してもうまくいかない。
- (2) 実施団体、講座スタッフ、受講生の交流システムが形成されている必要がある。
- (3) 実技を一緒にやる時間がたっぷりある。
- (4) 星空案内をたくさん経験できる環境が必要。
- (5) 一人ひとりの個性が大切なので、自由に羽ばたくことのできる雰囲気が必要。(押し付けるようなことがないように)
- (6) 当然ですが、講座の授業は楽しいものが提供されている必要があります。

ver.2020.9.1

第2章 講座運営

2.1 講座運営の典型パターン

講座実施から認定までのもっとも標準的な進め方を紹介します。制度規則だけでは実際の講座運営のイメージが湧きにくいと思いますので以下を参考にして計画してください。細かいコツは幾つかありますが、まずはミニマムを書きます。

2.1.1 準案内人資格取得まで: 星空案内人(星のソムリエ)講座

以下の科目の講座およびオリエンテーションを行います。

- (1) オリエンテーション(受講が円滑に進むための説明)
- (2) さあ、はじめよう(講義科目)(100分以上)
- (3) 星空の文化に親しむ(講義科目)(100分以上)
- (4) 望遠鏡のしくみ(講義科目)(100分以上)
- (5) 星座を見つけよう(実技科目)(100分以上)
- (6) 望遠鏡を使ってみよう(実技科目)(100分以上)
- (7) 星空案内の実際(実技科目)(100分以上)

- 講義内容は講義要綱に従って実施してください。
- 科目の順番は制限しませんが、受講生の予備知識や興味を考慮して決めてください。
- 100分は満たすべき最低限の時間ですので、可能なら増やしてください。100分の場合も連続ではなく50分二コマにして学びやすくしましょう。

- 遅刻・早退について 15–20 分程度の時間をあらかじめ受講生に連絡し、定められた限度以上の遅刻・早退は欠席扱いにします。
- 実技の**練習**は講座とは別に時間を設けます。詳しくは 2.1.4 をご覧ください。実技科目では、実技の説明や背景となる考え方の説明など丁寧にしましょう。もちろん実際に機器に触れていただくことは必要です。この時、初めて望遠鏡に触れるという方もおいでです。
- 講師と受講生、受講生同志の交流は星空案内人が育つためには重要ですので交流の時間を講義以外に設けるようにしましょう。
- 受講生はいろいろなところで戸惑います。オリエンテーションは複数回行うことをお勧めします。

各科目は、月に一回または二回程度の頻度にして、間隔をあげ、全体として半年から一年のコースにすることを運営機構では奨励します。合宿という開講形式も認めていますが、星空案内人の養成の効果は劣ることを覚悟してください。合宿の場合、十分な自主学習時間、交流の時間が持てるように特段の注意を払ってください。また、合宿後のケアについても十分対策してください。

2.1.2 講義科目の単位認定

講義の出席後、各自が自宅で単位認定レポートを完成し、後日、実施担当に提出します。講座スタッフまたは講師が採点し、採点結果を受講生に返却します。不合格の場合は何度でも再提出できますので根気強く合格までご指導をおねがいします。

合宿形式の場合は、レポートに取り組む時間を設けてください。合宿期間内に完成しないときも後日採点や合否判定ができるようにしてください。

- 合格レポートはコピーして、受講者と実施団体両方で原本あるいはコピーのどちらかを保持し、単位認定のための証拠書類として、資格認定の際トラブルにならないようにしてください。
- 出席とレポートの合格の両方が揃うとその科目の単位が認定されます。
- こんな受講生がいたら：
 - ・出席しなくてもレポート100点ならば単位認定してくださいと言う受講生が時々いますが、星空案内人制度では受講の中で質疑応答するなどコミュニケーションを重視しますので、受講しないでレポートだけの合格では単位認定にはなりません。
 - ・講座当日にレポートを完成し提出したいというせっかちな受講生さんが時々いますが、経験的には不完全なことが多く、もし家庭で再度取り組んでみると新しい疑問が湧いて調べなおしということになるものです。その日は受け取らず一度自宅で再チェックしてからの後日受け取りをすることをお勧めします。

実施団体は受講生の成績管理表を作成し、出席、レポートの合否、単位取得の有無を記録してください。実施団体の成績管理表の保管義務は講座終了後5年間です。なお、それ以上の年限がたっても資格認定の単位としては有効です。受講生が持っている返却レポートが証拠書類となりますので受講生にその旨をお伝えください。

2.1.3 準案内人の認定

ここまでで、多くの受講生は準案内人の資格認定基準を満たすことができますので、まず、準案内人の資格認定をしましょう。なお、資格は受

講生に資格認定書発行申請書を提出してもらい、申請者に対してのみ判定して資格を発行してください¹。

講座終了後、準案内人の認定書授与式を行うとその後の活動に弾みがかかるので認定書授与式と懇親会の開催をお勧めします。

2.1.4 準案内人から案内人へ

講座終了後、観望会、練習会など様々な機会を実施団体は準備し、それらの機会を利用して、準案内人の資格を持った受講生²は実技科目の練習、そして実技試験の実施へと進みます。通常、半年から一年あるいはもう少し時間をかけて順次実技科目の単位取得を目指します。この間に、仲間同士のコミュニケーションや案内人になってからの活動の基盤が作られていきますので重要な時期です。そして最終段階でいわゆる路上試験のニックネームを持つ星空案内の実際の実技試験を行い、合格すると星空案内人の認定となります。(なお、スケジュールなどの都合で実技試験の実施順序が前後して、星空案内の実際の実技試験が資格取得のための最後の単位認定にならなくても問題ありません。)

2.1.5 実技科目の単位認定

全ての実技試験は、実技試験の「認定チェックシート」を用いてチェックシートに記載されている指示に従って実施してください。星空案内人制度の認定基準のページに公開されている認定チェックシート以外の方法では単位認定はできません。

¹受講生の申請がないのにも関わらず、実施団体が資格認定書を発行すると、受取人のいない認定書が発生し処分に困ることがあります。また、万一、認定取り消しの事態になった場合も受講生の申請に基づいて発行していたという経緯があると申請のあったものを却下するという意味になるので法的な取り扱いがシンプルです。

²準案内人を取ってから実技科目の練習を開始する方式を二段ロケット方式とよんでいます。制度規則上は、受講生はまだ準案内員の資格を持っていない時から実技練習、場合によっては実技科目の試験を受けることは可能ですが、その場合、実施団体の負担が大きくなりすぎ苦労した経験から生まれたのが、まず、準案内人、つぎに、実技練習から案内人へという二段ロケット方式です。

- 合格の記録がされた認定チェックシートはコピーして、受講者と実施団体両方で原本あるいはコピーのどちらかを保持し、単位認定のための証拠書類として、資格認定の際トラブルにならないようにしてください。
- 各科目の出席と単位認定チェックシートの合格の両方が揃うとその科目の単位が認定されます。
- 星空案内の実際の実技試験が合格し、条件が整ったら、受講生に資格認定の発行申請書を書いて提出してもらいましょう。申請に基づいて実施団体は資格条件を満たしているか判定し、満たしていれば資格認定書を発行します。活動の時に名札として利用できる名前と写真の入った認定証の発行も合わせて行います。

準案内人のうち案内人を取得するのはおよそ 10%-20%程度が目安です。実技科目の指導はスタッフの負担が大きいです、貴重な人材となります。案内人に進みたい方へのご指導をお願いします。

一方、準案内人までで良い(案内人に進まなくて良い)と判断された方の重要性に注目してください。案内人の資格をとった方が星空案内に活躍する人で、案内人に進まないと考えた人は落伍者/あるいはそれほど熱くない人といった考えを決してしてはいけません。実際、全国の星空案内活動の様子を見ると、準案内人資格をとって活動している方のパワーがとても大きく、目を見張るものがあります。準案内人資格取得で星空案内の活動は十分にできますし、日常生活の隅々まで活動が広がるという意味では人数が多い準案内人の活躍がむしろ重要です。実施団体は、準案内人の方とコミュニケーションを持ち続け活動をするを強くお勧めします。

2.1.6 資格取得後

この制度の実施団体は、ミッションに合わせた育てたい案内人像をおもちのことと思います。その実現を目指して活動してください。

準案内人、案内人、あるいは受講のみの方と連絡網を確立し、一緒に実施団体の活動を盛り上げるように企画してください。また、案内人さんの立場になってみると、生みの親である実施団体の準備する活動場所はとても頼みになる場所です。実施団体は活動場所の提供に努めてください。

運営機構では星空案内人資格制度の発展のために様々な活動を行なっています。

資格発行を目的とした案内人養成は制度として認めていません。

制度の実施団体として認められた団体が、別の団体から講座の委託を受けた場合は、委託者がまず制度利用のための申請をするようにしてください。(専用の申請書が準備されています。)

ver.2020.9.1

第3章 星のソムリエ

3.1 星のソムリエとは？と聞かれたとき

星空案内人(星のソムリエ)とはどんなものかを PR 用のチラシや講座の募集要項、自己紹介に書きたいとき、どんな表現が良いか？これはなかなか難しい問題です。以下はそのような目的のための文章の例です。ご活用ください

チラシなどでの短い導入

星空や宇宙は、見たり、感じたり、学んだりすることで、人生を豊かにしてくれます。星空案内人はこのことをみなさんに伝えます。

「星・宇宙が好き」という気持ちを持つ誰もが星空案内人になれるように導いてくれるのが星空案内人(星のソムリエ[®]) 資格認定制度です。

星のソムリエ[®] は、星空案内人資格認定制度運営機構が管理・運用する商標です。このコンテンツは、星空案内人資格認定制度運営機構の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

_____ ちよつとくわしく _____

[ソムリエのイメージ]

レストランではソムリエが季節や料理に合わせておいしいワインを選んでくれ、また、楽しい会話でテーブルを盛り上げてくれるでしょう。同じように「星のソムリエ[®]」は、季節や場所がらに合わせて美しい星空を見せてくれたり、その場にいる皆さんの好みに合わせて、星空や宇宙の話をしてくれます。どちらのソムリエにも大切なことは知識・技能よりおもてなしの心ですね。

星のソムリエ[®] は、星空案内人資格認定制度運営機構が管理・運用する商標です。このコンテンツは、星空案内人資格認定制度運営機構の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

[星空案内人はどんなひと?]

星空や宇宙は、見たり、感じたり、学んだりすることで、人生を豊かにしてくれます。さらに、このことを人に伝えるのが星空案内人です。星空

や宇宙を通じて、多くの人と共感し、社会を豊かにすることを星空案内人は目指しています。

[なぜ、資格認定]

星空案内をしてみたいと思っても、それはなかなかハードルが高いことです。しかし、ほんの小さなことでも星や宇宙について知りたいたくさんの方が待っています。そこで、「星が好き」という思いだけでも、あなたの背中をちょっと押してくれて、少し自信がつく資格があると、星空案内の道に一步踏み出すことができます。そこで、星空案内人資格認定制度が作られました。講座を受けてまずは星空案内人(準案内人)の資格をめざしましょう。

[学んでハッピー、伝えてハッピー：ハッピー二乗の法則]

星空案内人資格認定制度の講座を受けることで基本的な知識や技能を学び、星空を体験することができます。これは楽しいことです。これが一つ目のハッピー。つぎに、学んだことを語り伝えることで喜んでいただけます。星空案内を楽しんでいただいてもうひとつのハッピーを感じます。

学ぶことによるハッピーと人に伝えることによるハッピーと、二つのハッピーによって星空案内人はいつも元気です。これをハッピー二乗の法則と呼んでいます。

[認定基準は]

この制度は、星空案内に必要な高度な知識や技能を認定するためのものではありません。ハッピー二乗の力をかりて、星好きの誰もが一步前進するためのものです。この制度によって多くの方が星空・宇宙に触れることをめざします。星空・宇宙に親しむ文化を普及します。

この目標にふさわしい認定基準を設け、全国同じ基準で資格認定をしています。

[星空案内人と星空案内人(準案内人)]

資格は二段階: 最初のステップが「星空案内人(準案内人)」, 次のステッ

プが「星空案内人」です。それぞれ必要な科目の単位取得と講座出席によって資格が与えられます。

(くわしくは、こちら [HP])

[星のソムリエ®] 星のソムリエは「星空案内人(準案内人)」、「星空案内人」のいずれにも使うことができる資格の愛称です。「星のソムリエ®」は商標登録され全国の星空案内人の皆様が大事に使っていることばです。「星のソムリエ」を使用するときは、使用のガイドラインに従うようにしてください。

(くわしくは、こちら [HP])

資格をとってからどんな活動をしますか

資格をとったみなさんは、いろいろな活動をしていらっしゃると思います。たとえば、

- ・自分の子供や身近な人に星の話をしたり、野外で星を見せたりする。
 - ・科学館や天文台、星空関連の同好会の中で星空観望会など、ボランティア活動をする。
 - ・スキルを磨いて、講演活動、科学館やプラネタリウムなどの仕事に従事する
 - ・観光地などで星空案内のガイドツアーを行う
 - ・星や宇宙に関する執筆稼働をする
- など。

本当にいろいろな方法で資格を自分の生活に活かしていただいています。

ver.2020.9.1